

学位論文の審査結果の要旨

日本政府は近年、日本食の普及と食品及び農産物の輸出拡大をはかっているが、同様な政策はアジア各国でも行われており、海外で自国料理を提供するレストランを増やす取り組みなどが実施されている。これらは輸出と同時に食品や料理を通じて国のブランド価値を高める戦略で、広報や文化交流を通じて外国の国民や世論に働きかける広報文化外交（Public Diplomacy、PD）の一環として位置づけられるものである。日本はタイ、韓国、マレーシア、台湾などPDを行う国の1つのターゲット市場となっているが、その中でマレーシア料理の普及度は他国に比べて低い。マレーシア政府はPDとしてMalaysia Kitchen Program（MKP）を実施してきたが、それをさらに進めるにはその普及を妨げている要因を分析することが不可欠である。

日本でのマレーシア料理の受容可能性を探るには、嗜好の変化を考慮すると、短期と長期の双方からの検討が必要となる。前者については日本ではプラスのイメージが持たれているとの報告があるが、後者については長期的視点からの研究はなされていない。その理由として、長期的な受容可能性についての調査研究を実施しようとしても、日本国内ではマレーシア料理の食経験を持つ人が限られており、調査設計が困難であることがあげられる。申請者はマレーシアのクアラルンプール（Kuala Lumpur、KL）へ仕事目的で移住する日本人が増加していることに着目し、そこでマレーシア料理（マレー料理、マレーシア中華料理、マレーシアインド料理、ニョニャ料理に分類される）の受容のされ方を調査する方法を採っている。

本論文では、調査研究に入る前に、まず調査地であるKLが属する都市地域の食料消費を農村地域のそれと比較するため、線形近似された需要体系システム（Linear Approximated Almost Ideal Demand System、LA-AIDS）による計量分析を行っている。その結果、両地域の外食を除く食材の支出弾力性および価格弾力性はほぼ同一の性質であるが、外食に関してのみ差異があることを示し、本論文の調査地のKLは支出や価格などの経済変数の変化に対してより非弾力的な消費行動をとりやすい環境にあるとしている。

次に、申請者はKLへの日本人移住者を対象に、個人属性に加えてマレーシア料理の選択頻度についての実地調査を行っている。その調査結果をもとに、マレーシア料理の選択要因として移住期間や年齢、食事形態（内食、外食）などの6つの独立変数を抽出し、個別データからの推定に適したプロビット（Probit）モデルを用いて尤度関数の反復計算を行い、各変数の限界効果（Marginal Effect、

ME) を明らかにしている。分析の結果、移住期間の長さはマレーシア料理の選択頻度に正の効果をもち、移住当初より比較的高く長期的にも増加する傾向をもっていた。他方、年齢は逆に負の効果をもち、一定の年齢層に達するとその選択頻度は大きく低下していた。ただし、多様性をもつマレーシア料理は種類の相違によって移住期間や年代を問わず幅広く日本人に受容される可能性を残した。

そのため、申請者はマレーシアが多民族国家でありマレーシア料理も4種類の異なる民族料理から構成されていることを考慮して、料理の種類の違いを明示的に扱った更なる分析を行っている。具体的には、日本のマレーシア料理レストランがマレー料理を中心に提供していることと、調査対象者の中でマレーシア中華料理が最も好まれていることから、マレー料理とマレーシア中華料理の選択を従属変数としたProbitモデルを適応して、それらの選択頻度と選択要因の分析を行っている。分析の結果、移住当初はマレー料理の選択頻度が4種類のマレーシア料理の中で最も高いが、移住期間が長期化するとその頻度は低下していき、逆に、マレーシア中華料理は選択されやすいことを示した。また、年齢に関しては、若くなるほどマレー料理の選択頻度が高く、高齢になるほどマレーシア中華料理の選択頻度が高くなることから、年代の違いに応じたPDの展開が有効であると指摘している。一連の計量分析から、マレーシア料理全体で示された選択頻度に関する特質は、種類の異なる料理がそれぞれもつ選択要因が複合されたものであったことを明らかにし、それに基づいたマレーシア料理の普及方策への転換を提言している。

本論文は、以上のように従来取り上げられてこなかった長期の移住による食生活の変化を示し、食生活論に新たな知見を加えている。同時に、料理選択の要因分析からマレーシアのPD推進方策へ新たな示唆を与えるものとなっている。また、これらの研究成果はすでに学会誌へ2報掲載済みであり学位論文の基礎とされている。

以上により、本論文は信州大学大学院の博士（農学）の学位に値すると判断される。

公表主要論文名

1. Nabila binti Mohd Saidi, Akiko Tani, Takashi Sasaki, Dietary Style of Japanese Immigrants in Malaysia, フードシステム研究, 第23巻第3号, pp.165~168 (2016)
2. Nabila binti Mohd Saidi, Akiko Tani and Takashi Sasaki, Meal selection among Japanese immigrants in Malaysia based on year of immigration, 日本食生活学会誌, 第29巻第4号, pp.195~203 (2019)